

全国調査

知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級の実態調査

1 調査目的

全国の特別支援学級設置校の課題を把握するとともに、今後の特別支援教育の推進や充実、国への提言等の検討するための基礎データとする。

2 調査対象

各都道府県において知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級を設置する小・中学校の校長 ※ 全特協の各地区理事を通して、約10%を抽出する。

3 調査期間

令和元年7月8日（月）～令和元年9月13日（金）

4 調査内容

- (1) 学校について
- (2) 教職員について
- (3) 教育課程について
- (4) 校長自身の教職経験について
- (5) 特別支援学級担任の専門性を高めるための研修について
- (6) 学校長の特別支援教育に係る研修の現状と課題について
- (7) その他

5 回答に当たっての注意事項

- ・回答は、令和元年7月1日現在の貴校の状況について回答してください。
- ・校長先生ご自身が入力してください。（教員による回答は、させないでください。）
- ・調査にかかる時間は約15分～20分程度です。
- ・全特協のホームページから全国調査が実施できない場合は、ホームページ上の「令和元年度全国調査」、「全国調査回答用紙」をクリックし、ダウンロード（word版、PDF版）してください。「全国調査回答用紙」を、調査部長まで電子メール、郵送、ファクシミリいずれかの方法でご提出ください。

[全国調査の問合せ先]

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 調査部長 玉野 麻衣
世田谷区立奥沢小学校
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢3-1-1
電話 03-3727-3535
ファクシミリ 03-3727-1398
E-mail kou037@setagaya.ed.jp

1 学校について

- (1) 学校が所在する都道府県名をご記入ください。(例 ○○県)
- (2) 学校名をご記入ください。(例 ○○市区町村立○○小・中学校)
- (3) 校種等を選択してください。
- ア 小学校
 - イ 中学校
 - ウ 義務教育学校
- (4) 貴校に設置している学級を選択してください。
- ア 知的障害特別支援学級
 - イ 自閉症・情緒障害特別支援学級
 - ウ 知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級を併設
- (5) 貴校の知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒数をご記入ください。
- ア 知的障害特別支援学級
 - イ 自閉症・情緒障害特別支援学級

2 教職員について

- (6) 貴校の知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級それぞれにおける正規雇用の教員の人数を選んでください。
- ※ 「正規雇用の教員」とは、常時勤務する者を指し、常勤講師や産休代替者及び育児休業代替者を含めます。また、再任用制度により採用された教員は、常時勤務する場合には含めます。
- ア 0名
 - イ 1名
 - ウ 2名
 - エ 3名
 - オ 4名
 - カ 5名
 - キ 6名以上
- (7) 貴校の知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級それぞれを担当(担任を含む)する正規雇用以外の教員の人数を選んでください。
- ※ 「正規雇用以外の教員」とは、非常勤講師などを指します。
- ア 0名
 - イ 1名
 - ウ 2名
 - エ 3名以上

(8) 貴校の知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級それぞれを担当する特別支援教育支援員の人数を選んでください。

※ 「特別支援教育支援員」とは、教育免許状等の資格は不問であり、直接児童生徒に支援をしている者を指します。名称は各自治体により異なります。

- ア 0名
- イ 1名
- ウ 2名
- エ 3名以上

(9) 貴校の知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級それぞれの主任について伺います。

主任の教職経験年数（令和2年3月現在）について、以下の記号を選択してください。

※ 「主任」とは特別支援学級のリーダー的な立場の教員を指します。特別支援学級に1人しか教員がない場合には、その教員を「主任」とします。

- ア 1年以上6年未満
- イ 6年以上11年未満
- ウ 11年以上16年未満
- エ 16年以上21年未満
- オ 21年以上26年未満
- カ 26年以上31年未満
- キ 31年以上

(10) (9) で答えたそれぞれの主任の知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級での経験年数（令和2年3月現在）について、以下の記号を選択してください。

- ア 1年
- イ 2年
- ウ 3年
- エ 4年
- オ 5年
- カ 6年以上11年未満
- キ 11年以上

(11) (9) で答えたそれぞれの主任の特別支援学校（盲・聾・養護学校含む）教諭免許状の保有状況について、以下の記号を選択してください。

- ア 保有している
- イ 保有していない
- ウ 現在、取得中

(12) (9) で答えたそれぞれの主任は、特別支援学校での教職経験がありますか。

- ア ある
- イ ない

3 教育課程について

貴校の知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級それぞれの教育課程について伺います。

(13) 貴校の令和元年度の特別支援学級の教育課程の編成は、次のどれにあたりますか。

- ※ 複数の教育課程を編成している場合には、貴校の知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒を最も多く対象とする教育課程を対象としてください。
- ア 通常の学級における当該学年の各教科等を中心に編成している。
- イ 通常の学級における下学年の各教科等を中心に編成している。
- ウ 知的障害特別支援学校の各教科等を中心に編成している。
- エ 自立活動を中心に編成している

4 校長自身の教職経験について

(14) 校長自身の通級指導教室や特別支援学級、特別支援学校など特別支援教育にかかわる教職経験を選択してください。(ア、イ、ウについては複数回答可)

- ア 通級による指導での教職経験がある。
- イ 特別支援学級での教職経験がある。
- ウ 特別支援学校での教職経験がある。
- エ 特別支援教育にかかわる教職経験はない。

5 特別支援学級担任の専門性を高めるための研修について

(15) 昨年度、貴校の特別支援学級担任が、学校外で特別支援教育に関する公的な研修を受ける機会がありましたか。

- ア あった → (16) へ
- イ なかった → (20) へ
- ウ わからない → (20) へ

(16) 貴校の特別支援学級担任が、学校外で特別支援教育に関する公的な研修を受ける機会は、昨年度1年間で何回ありましたか。

※ 時間の長さは問いません。複数担任の場合は、回数が一番多かった担任について回答してください。

- ア 1回
- イ 2回
- ウ 3回
- エ 4回
- オ 5回
- カ 6回以上
- キ わからない

(17) 貴校の特別支援学級担任が、受講した研修の内容はどのようなものでしたか。(複数回答可)

- ア 障害のある児童生徒への指導方法
- イ 障害についての知識
- ウ 諸検査の方法や結果の分析等の実態把握力
- エ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成の仕方

- オ 医療情報
- カ 福祉情報
- キ 特別支援学級の教育課程の編成と教科書の選定
- ク 自立活動の指導
- ケ 特別支援学級の学級経営
- コ 保護者相談の在り方
- サ 障害のある児童生徒の進路情報
- シ 国や都道府県の特別支援教育に関する情報
- ス 特別支援学級における指導における学習評価
- セ 教科等の指導

(18) 公的な研修の主催者はどこですか。(複数回答可)

- ア 文部科学省
- イ 国立特別支援教育総合研究所
- ウ 都道府県教委（教育センター等含む）
- エ 市区町村教委（教育センター等含む）
- オ 大学（国公立）
- カ 公的な研究機関
- キ 民間の研究機関
- ク 障害者関連施設
- ケ その他

(19) 受けた研修の成果について、主に次のどれにあたりますか。

- ア 校内において研修の成果を報告した
- イ 特別支援学級の指導に生かされた
- ウ 関係機関との連携等に生かされた
- エ どちらかといえば成果はなかった
- オ わからない

(20) 特別支援学級担任に対して、学校外で実施される研修体制は十分にできていると思いますか。

- ア 十分できていると思う
- イ おおむねできていると思う
- ウ どちらともいえない
- エ どちらかというとできていないと思う
- オ ほとんどできていないと思う

(21) 特別支援学級担任の専門性向上のための校内研修（校内でケース会議などを設ける等）を実施していますか。

※ 通常の学級の教員を対象とした特別支援教育にかかる研修を除きます。本年度の研修（実施予定を含む）について回答してください。

- ア 実施している（実施する予定がある） → (22) へ
- イ 実施していない → (24) へ

- (22) 特別支援学級担任に対して、どのような方法で、校内研修が行われていますか。(複数回答可)
- ア 学識経験者や専門家がスーパーバイザーとして、特別支援学級における指導についている。または、担任へ助言するための巡回指導や巡回相談がある。
 - イ 指導主事や学識経験者、専門家等を招聘して指導を受けている。
 - ウ 様々な報告書や指導書、書籍等を通して研修を行う。
 - エ 研修を受けた教員の報告による伝達研修を行う。
 - オ 特別支援学級における指導でテーマを決めて研究に取り組んでいる。
 - カ 特別支援学級における指導内でO J Tによる研修を行う。
 - キ その他
- (23) 実施した研修の成果について、次のどれにあたりますか。
- ア 成果があった
 - イ どちらかといえば成果があった
 - ウ どちらかといえば成果はなかった
 - エ 成果はなかった
- (24) 特別支援学級担任に対して、校内研修を実施していない主な理由は何ですか。
- ア 担任の数が少ないから
 - イ 校内研修は通常の学級中心で行うから
 - ウ 特別支援学級における指導の担任教員だけで校内研修を行う時間がないから
 - エ 内容や方法が分からないから
 - オ その他
- (25) 特別支援学級担任に対して、校内で実施する研修体制は十分にできていると思いますか。
- ア 十分できていると思う
 - イ おおむねできていると思う
 - ウ どちらとも言えない
 - エ どちらかというとできていないと思う
 - オ ほとんどできていないと思う
- (26) 現在、学校長として特別支援学級担任の専門性向上のために、特に必要な研修を3つ挙げてください。
- ア 障害の特性についての理解
 - イ 障害の特性に応じた児童生徒への指導方法
 - ウ 諸検査の方法や結果の分析等の実態把握
 - エ 個別の教育支援計画の作成と活用
 - オ 個別の指導計画の作成と活用、見直し
 - カ 特別支援学級の学級経営
 - キ 特別支援学級の教育課程の編成と教科書の選定
 - ク 自立活動の指導
 - ケ 各教科等の指導
 - コ 各教科等を合わせた指導
 - サ 特別支援学級における指導における学習評価

- シ 保護者相談の在り方
- ス 障害のある児童生徒の進路情報
- セ 関係機関との連携（医療、福祉、特別支援学校、教育委員会等）
- ソ 教材の開発
- タ 校内における教育支援体制の推進
- チ 特別支援教育コーディネーター
- ツ 国や都道府県の特別支援教育に関する情報

6 学校長の特別支援教育に係る研修の現状と課題について

※ 特別支援教育に関して、校長になる以前に、管理職（副校長、教頭など）研修を受けた場合は、「校長ではないが副校長、教頭の時期に受けた」にチェックしてください。

(27) 校長への特別支援教育についての研修はありますか。

- ア ある → (28) へ
- イ ない → (32) へ
- ウ 校長ではないが副校長、教頭の時期に受けた → (30) へ

(28) 昨年、校長が学校外で特別支援教育に関する公的な研修を受ける機会は1年間で何回ありましたか。

(時間の長さは問わない)

年 () 回

(29) 現在の研修で十分だと思いますか。

- ア 十分できていると思う
- イ おおむねできていると思う
- ウ どちらとも言えない
- エ どちらかというとできていないと思う
- オ ほとんどできていないと思う

(30) 受けた研修の内容はどのようなものでしたか。(複数回答可)

- ア 障害のある児童生徒への指導方法
- イ 障害についての知識
- ウ 諸検査の方法や結果の分析等の実態把握力
- エ 個別の教育支援計画や個別指導計画の作成の仕方
- オ 医療情報
- カ 福祉情報
- キ 特別支援学級の教育課程の編成と教科書の選定
- ク 自立活動の指導
- ケ 特別支援学級の学級経営
- コ 保護者相談の在り方
- サ 障害のある児童生徒の進路情報
- シ 国や都道府県の特別支援教育に関する情報
- ス 設置校長としての学校経営
- セ 特別支援学級における指導における学習評価
- ソ 教科等の指導

タ その他

(31)その研修の主催者はどこですか。(複数回答可)

- ア 文部科学省
- イ 国立特別支援教育総合研究所
- ウ 都道府県教委(教育センター等含む)
- エ 市区町村教委(教育センター等含む)
- オ 大学(国公立)
- カ 公的な研究機関
- キ 民間の研究機関
- ク 障害者関連施設
- ケ その他

(32)現在、学校長としてご自身にどのような研修が必要か、**3つ**挙げてください。

- ア 特別支援学級の教育課程の編成について
- イ 特別支援学級の教科書の使用について
- ウ 特別支援学級の学級経営について
- エ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成及び活用、計画の見直しについて
- オ 特別支援学級の学習評価について
- カ 教育的ニーズのある児童・生徒の理解について
- キ 教育的のニーズのある児童・生徒に応じた具体的な支援、指導の方法について
- ク 自立活動の指導方法について
- ケ 交流及び共同学習のあり方について
- コ 特別支援学校のセンター的機能の活用方法について
- サ 通常の学級における教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援について
- シ ユニバーサルデザインによる授業づくり、学習環境づくりについて
- ス 就学先の検討及び教育相談について
- セ キャリア教育を含めた、障害のある子の進路指導について
- ソ 校内での教育支援体制づくり及び校内委員会のあり方について
- タ 特別支援教育コーディネーターの育成について
- チ 保護者相談の在り方、保護者への対応について
- ツ 校内研修(インクルーシブ教育システム構築、特別支援教育、国や県等の特別支援教育に係る動向等)及び事例検討のあり方について
- テ 諸検査の分析と活用について
- ト 特別支援学級設置校長としての学校経営について
- ナ 教育委員会、専門機関(医療、福祉等)との連携について

(33)どのような研修を受けたいですか。(自由記述)

--

(34) 特別支援学級と放課後等デイサービスとの連携は十分だと思いますか。

- ア 十分できていると思う → (36) へ
- イ おおむねできていると思う → (36) へ
- ウ どちらとも言えない → (35) へ
- エ どちらかというとできていないと思う → (35) へ
- オ ほとんどできていないと思う → (35) へ

(35) (34)でウ、エ、オと回答した理由は何ですか。(複数回答可)

- ア 放課後等デイサービスに通う児童生徒がいないため
- イ 子供の状態等について情報交換・引継ぎが十分でないため
- ウ 学校の指導内容と放課後等デイサービスの支援内容等との連携が十分でないため
- エ 連携する時間が確保できないため
- オ 放課後等デイサービスについて教職員の理解が深まっていないから
- カ 連携のための校内組織の整備が十分でないため
- キ その他(上記以外)

(36) 通常の学級と放課後等デイサービスとの連携は十分だと思いますか。

- ア 十分できていると思う
- イ おおむねできていると思う
- ウ どちらとも言えない
- エ どちらかというとできていないと思う
- オ ほとんどできていないと思う
- カ 通常の学級には利用者がいない

6 その他

(37) 特別支援学級についての課題や、充実させるためのご意見等がありましたら記入してください。

(自由記述)

アンケートへのご協力ありがとうございました。